

目地バリシート施工マニュアル

施工前



① 施工前の状態
路面の状態、目地部分の隙間、発生雑草の種類によって、適切な前処理を選択する。
(前処理の選択は裏面参照)



⑤ セメント充填
目地の隙間に目地バリセメントを充填する。
(使用目安 0.2ℓ/m)
目地を境に段差のある場合も、シート貼付後に隙間ができないよう、目地バリセメントを充填する。

目地バリシート貼付



⑧ 貼付準備
プライマーが乾いたのを確認後、目地バリシートを抜き、離形紙を剥がす。
高温で長時間拡げておくと、離形紙が剥がれにくくなるので注意。

点検



⑫ 点検
シートの浮き上がりが無いかを確認し、浮いた部分があれば鎌などを用いて持ち上げ、家庭用パーナーなどを用いてシート裏面を加熱し、再圧着を行う。

前処理



② 除草
目地から雑草が発生している場合は、施工前の処理として、除草を行う。



⑥ 路面の処理
路面に凹凸や窪みがある場合は、目地バリセメント等を用いて、施工面が平らになるように処理を行う。
広い部分に使用した際は、充分な養生が必要。



⑨ 加熱
目地バリシートの裏面(離形紙の付いていた面)を、トーチランプ等を用いて加熱する。プライマーに引火する恐れがあるので、注意。
(加熱の目安は、裏面参照)

完了



⑬ 施工完了



③ 抜根除草・目地堆積物の処理
根カキなどを用いて、雑草の根や、目地部に堆積した土埃を除去する。



プライマー塗布

⑦ プライマー塗布
ラインチョークなどで位置だしを行い、施工面の砂埃を払い、刷毛などを用いてプライマーを均一に塗布する。
(使用目安 50ml/m)
残ったプライマーは密封し、容器の記載に従い保管する。



⑩ 貼付
シワが入らないよう、シートを貼り付ける。加熱しすぎると、表面に指の跡がつくので注意が必要。
シートとシートの重ねは、5cm以上とする。

補足1(重ね部分の加熱処理)



⑭ 重ね部分の加熱処理
目地バリシートの表層には、サンドが付着しているため、重ねて貼り付ける前に、表層を加熱し、付着しやすい状態にする必要がある。また、貼付後は、しっかりと圧着する。



④ 路盤清掃
ワイヤーブラシ、タワシなどを用い、路盤にこびりついた土埃の除去を行う。

プライマーの養生(重要)

(塗布後の養生目安)
夏期: 20分～ 冬期: 40分～

施工時の気温や、路面状態(窪みにプライマーが溜まる)によって、養生時間は異なる。目地バリシートを貼り付ける前に、指で触り、乾燥を確認することが望ましい。
養生が足りないと、プライマーに含まれる溶剤により、目地バリシートに悪影響が出る(裏面参照)恐れがあるので、注意する。



⑪ 転圧
目地バリシートを貼り付けたら、念入りに転圧を行う。特に、シートの両端に浮き上がりがないよう、注意する。
シートが冷めてきたら踏圧も可能。

補足2(カーブの処理)



⑮ カーブの処理
急カーブのある現場では、そのまま貼り付けると皺や浮き上がりが発生する恐れがあるため、カーブにあわせて短くカットし、重ねて貼り付ける。

目地バリシート施工上の注意点

前処理の選択

現場条件に応じて、必要な処理を選択する。
()内の番号はマニュアルの番号に対応。

- 目地部分から雑草が発生している。
⇒除草(②)、抜根除草(③)が必要
⇒発生している雑草が、チガヤ、ヨモギ、スギナ、ヨシなどの地下茎を持つ多年生の雑草である。(※)
⇒目地バリセメント充填(⑤)
- 目地部分に土が堆積している。
⇒目地堆積物の処理(③)が必要
- 新設の現場以外、または路面に土埃が付着している。
⇒路盤清掃(④)
- 目地の隙間が10mm以上開いている、または、目地を境に段差がある。
⇒目地バリセメント充填(⑤)
- 路面に凹凸や窪みがある。
⇒路面のセメント処理(⑥)

※イタドリ、オオイトドリが生育している場合は、事前の除草剤処理が必要

加熱の目安

目地バリシートは気温に応じて加熱時間が異なるため、どの程度まで加熱するのかを知ることが重要。加熱状態は、シート裏面のシワの有無で判断する。



加熱が足りない状態
表面を軽く加熱する程度では、表面のシワがそのまま残ってしまっている。



適度な加熱状態
シワが消え、表面が鉛状に変化。加熱直後の状態は、指の跡が残ることもあるので、設置には注意する。



加熱しすぎの状態
バーナーを離しても炎が上がっている。この状態では、内部のシートまで溶融する恐れもあるので、注意。

特に冬季の施工の際は、プライマー塗布前に、あらかじめ路面をバーナーで暖めておくことで、プライマーの養生時間の短縮や、目地バリシートがより付着しやすい状態になる。

プライマーの養生

プライマーの養生が不十分だと、揮発しきっていない溶剤により、目地バリシートの改質アスファルト部分に悪影響が出る恐れがある。



プライマーによる悪影響の例

プライマーの溶剤の影響で、改質アスファルト部分が変質・軟化し、改質アスファルト部分を雑草が貫通。剥がす際に、改質アスファルトが長く伸び、防草シート層と改質アスファルト層の剥離が見られる。

プライマーの塗布について

プライマーはそれ自身が接着力を持つのではなく、施工面を目地バリシートが付着しやすくするための資材である。そのため、厚く塗りすぎても効果はなく、全体に均一に塗布することが重要である。塗布後は溶剤の揮発のため、目安として、夏期は20分～、気温の低い冬期は40分～の養生が必要となる。



施工面の窪み

プライマーを大量に塗布すると、この部分にプライマーが溜まり、養生不良になりやすい。窪みのある場合は事前にセメント等を充填するなどの処理が必要。



乾燥確認

目地バリシート貼付前に、溶剤が完全に揮発したか、確認を行う。目安の養生時間を過ぎても、塗布量や気温によっては乾燥しきっていない場合もあるので注意。

補修方法

施工後、目地バリシートの浮き上がりや剥離、雑草の発生があった場合は以下の方法にて補修を行う。

目地バリシートの貼りなおし



1. シートを切り取り、路面からはがし、目地部分など雑草を除去する。



2. 路面を金ブラシ等を使用して研磨する。(こびりついた土などの除去)



3. 路面の清掃(接着不良の要因となる砂埃の除去)



4. プライマーの塗布
塗布後、十分に時間を置き、完全に乾燥させる。



5. 必要な長さにカットした目地バリシートの裏面を、バーナーで加熱する。



6. 加熱後、路面に貼り付け、特に端部を十分に転圧する。

※端部の浮き上がり等、軽微な補修で済む場合は、マニュアル⑫の方法を参照